

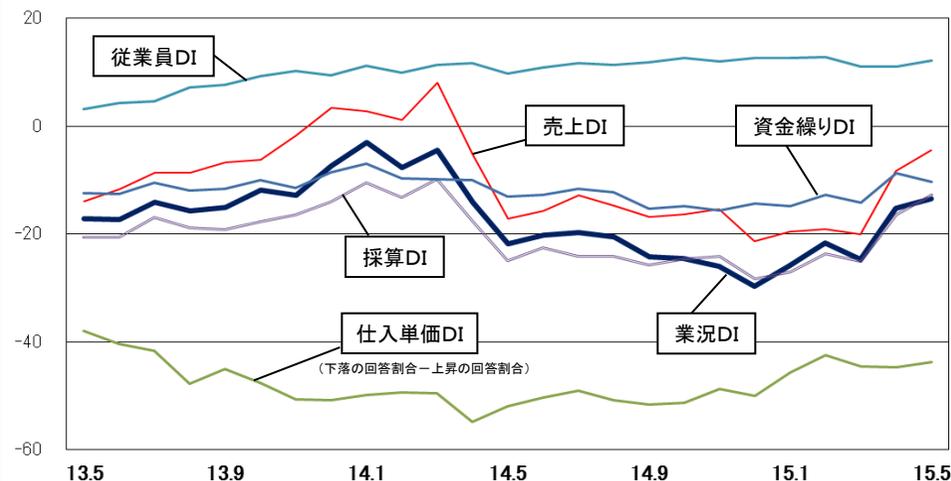


業況DIは、改善続く。先行きは横ばい圏内で推移も、持ち直しに期待感

ポイント

- ▶ 5月の全産業合計の業況DIは、▲13.5と、前月から+1.8ポイントの改善。輸出に伴う生産の伸びや好調なインバウンドによる下支え、株高・賃上げに伴う消費者のマインド好転に加え、一部で設備投資の動きが出始めるなど、中小企業の景況感は、受注・売上の回復を背景に持ち直しに向けた動きが進む。ただし、比較対象の前年同月は駆け込み需要の反動の影響から業況が一段と悪化した時期であることに留意が必要。また、業況DIの好転は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、依然としてコスト増や取引価格への転嫁遅れ、人手不足などが足かせとなる状況が続いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲14.3(今月比▲0.8ポイント)とほぼ横ばいを見込む。コスト増加分の価格転嫁遅れや人手不足、人件費の上昇などが、引き続き経営の足かせになるとの見方から、一部にもたつきが残る。他方で、大手企業の業績改善が進む中、受注増や設備投資の持ち直しへの期待感が伺えるほか、夏の賞与増を含む所得環境の好転から、個人消費の伸びを見込む声も聞かれている。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年5月以降)



2015年度の設備投資動向

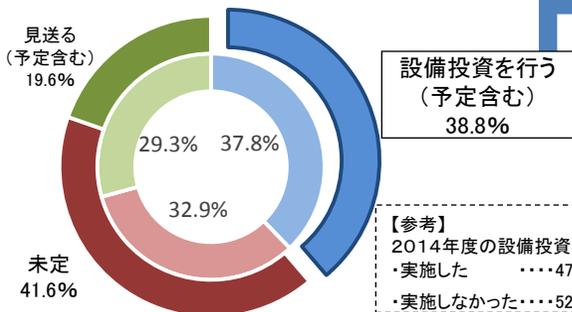
- ▶ 2015年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は38.8%と、2014年5月調査と比べ、ほぼ同水準。他方、「未定」は41.6%と、8.7%増加し、「見送る」は19.6%と、9.7%減少
- ▶ 設備投資内容は、「国内で新規設備投資」(全産業)が42.7%、「国内で既存設備の改修・更新」が72.3%、「海外で新規投資または既存設備の改修・更新」が4.6%
- ▶ 国内の新規設備投資の目的は、「能力増強」が46.3%、「品質向上・新製品生産・新分野進出」が37.9%、「省力化・合理化」が29.0%、「省エネ」が17.8%、「その他」が8.9%

【中小企業の声】

- ▶ 売上が伸びているため、既存設備の改修を行うが、仕入価格の高騰等が負担となり、大規模な設備投資を行うほどの余裕はない (青森 宿泊業)
- ▶ 昨年度に続き、品質向上や省エネ、合理化を図るため、設備投資を計画中 (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ 老朽化した店舗の建替えを行い、今夏にリニューアルオープンする。また、売上が堅調なこともあり、秋口に新規出店を予定している (浜松 総合スーパー)
- ▶ 清掃業務に必要な抗菌モップのクリーニング工場を新設。自社オリジナルサービスとしてPRし、新規顧客開拓につなげた (京都 ビルメンテナンス業)
- ▶ 取引先で高品質な日本製品へのニーズが高まっているため、設備投資や人員増強を図りたいが、安定的な受注が続か見通せず、踏み切れない (今治 衣料品製造業)

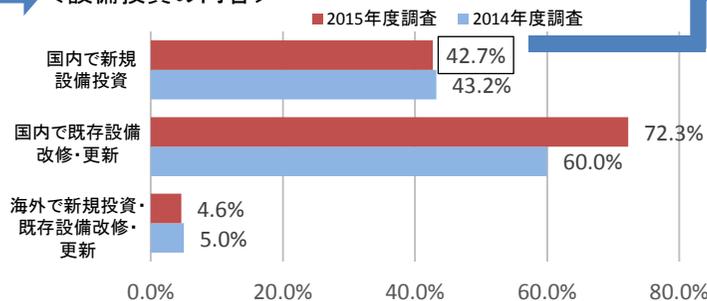
◆ 2015年度の設備投資動向について

※円グラフの外側が今回調査、内側が前回(2014年5月)調査

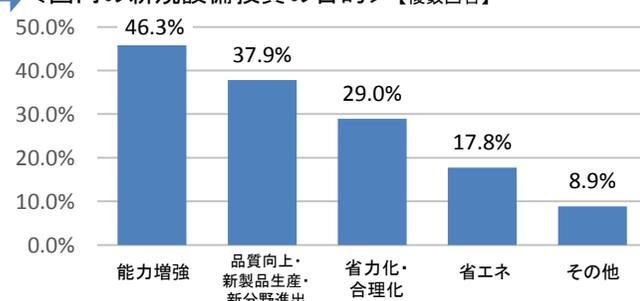


<設備投資の内容>

※設備投資を行う企業が回答 【複数回答】



<国内の新規設備投資の目的>【複数回答】



【参考】
2014年度の設備投資実績
・実施した...47.4%
・実施しなかった...52.6%